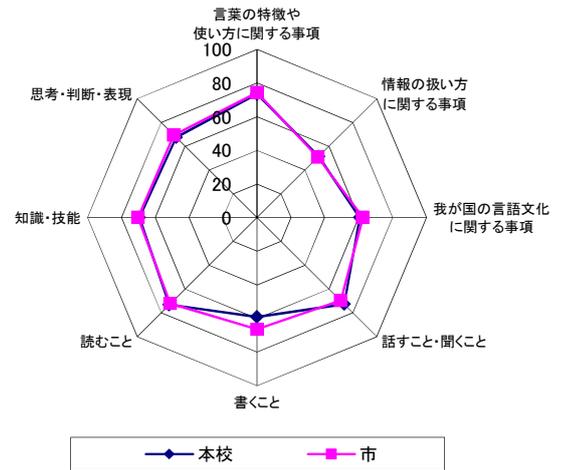


# 宇都宮市立中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.6	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	51.5	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	60.6	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	72.7	69.9	69.7
	書くこと	59.1	66.4	64.6
	読むこと	73.2	72.3	71.0
観点別	知識・技能	69.5	70.1	70.0
	思考・判断・表現	67.5	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

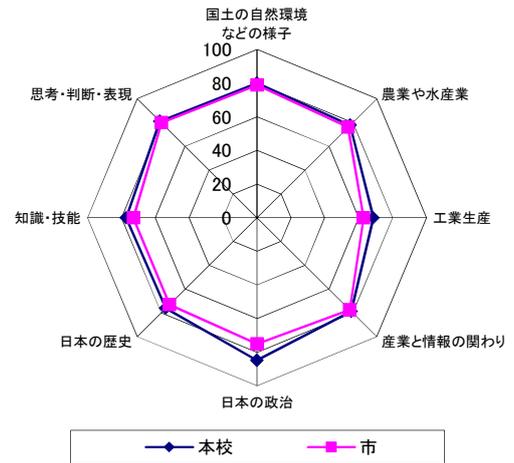
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>●市の平均正答率を0.7ポイント下回っている。特に、謙譲語を理解し正しく使っていることについては7.4ポイント下回っており、敬語の理解に課題が見られる。また、「桜」の書き取りは17.2ポイント下回った。</p> <p>○漢字を読むことについては、3問とも90%代と正答率が高く、よくできていた。</p>	<p>・漢字の読み書きについては、繰り返し復習させることでさらに定着を図るとともに、敬語などの言葉の知識についても振り返る時間を意識的に設け、基礎力を伸ばしていきたい。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○市の平均正答率を0.6ポイント上回っている。</p> <p>●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を書く問題では、市の正答率よりは6.8ポイント上回っているが、33.3%と低い。</p>	<p>・引き続き、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり、目的に応じて文章を書いたりすることにより、思考力や表現力を育てていきたい。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>●市の平均正答率を1.8ポイント下回っている。漢字の由来についての理解がまだ不十分である。漢字の成り立ちと音から、当てはまる形声文字を選ぶ問題が出題された。</p>	<p>・漢字の成り立ちについては、5学年で、象形文字、指事文字、会意文字、形声文字の4分類を学習している。しっかりと復習させていきたい。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○市の平均正答率を2.8ポイント上回っている。特に、話し合いの内容を聞き取ることについては、正答率が90～100%と、とてもよくできていた。</p> <p>●司会の役割や話し合いの進め方の工夫についての記述では、市より1.9ポイント上回ってはいるが、正答率が27.3%と最も低い。</p>	<p>・授業の中での話し合い活動を通して、司会の役割を理解させたり、話し合いの仕方や工夫を意識させたりして、話し合いのスキルの向上を図っていく。</p>
書くこと	<p>●市の平均正答率を7.3ポイント下回っている。特に、指定された長さや構成で文章を書いたり、事実をもとに自分の考えを書いたりする問題については、正答率が40～50%代と総じて低い。</p> <p>○内容を説明するために付け加える資料を選ぶ問題では、市の正答率を3.1ポイント上回っている。</p>	<p>・引き続き、自分の考えを明確に書く活動を継続して行っていくとともに、様々な条件に対応して書く力を育てていきたい。</p> <p>・国語の学習だけでなく、他の教科の学習でも、資料から読み取ったことなどを段落やまとまりを意識させながら書かせる活動を多く取り入れ、書く力の育成を図っていく。</p>
読むこと	<p>○市の平均正答率を0.9ポイント上回っている。特に、物語を読んだ感想を共有する問題については、市の平均正答率を9.3ポイント上回っている。</p> <p>●説明文の内容を整理する問題については、市の平均正答率を5.5ポイント下回った。文章全体の構成を考える問題では正答率が50%代と低かった。</p>	<p>・段落や文章全体の構成を考えながら説明文を読むことを意識させ、説明文の内容を理解する力を伸ばしていく。</p> <p>・引き続き、朝の読書の時間の確保や、教材文と同じジャンルや構成の本を読むなど、物語や説明文を含めて多様な文章にふれる機会を設定していく。</p>

# 宇都宮市立中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	80.0	78.9	75.4
	農業や水産業	77.8	76.1	71.2
	工業生産	68.7	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	78.8	77.6	59.7
	日本の政治	84.8	75.0	79.3
	日本の歴史	76.1	73.1	72.8
観点別	知識・技能	77.2	73.0	71.4
	思考・判断・表現	81.1	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

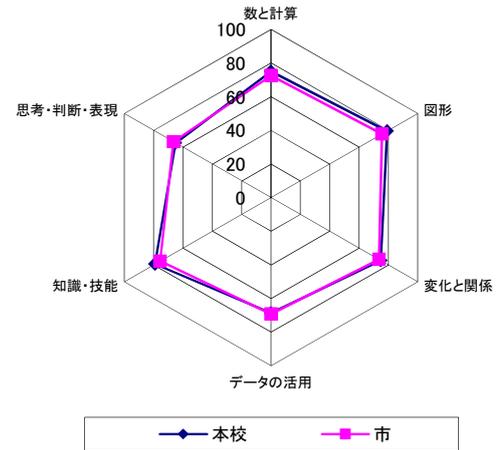
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○市の平均正答率を1.1ポイント上回っているが、「日本の主な地形の名称と位置の理解」の問題では、市が49.7%、本校が51.5%と低い正答率であった。	・市を上回り80%を超えているが、今後も授業中に地図帳に触れる機会を増やし、国土の広がりや山脈、河川等への興味・関心が高まるよう指導していく。
農業や水産業	○市の平均正答率を1.7ポイント上回っている。特に、日本の農業人口をめぐる課題について、棒グラフから読み取る問題では、平均正答率が87.9%と高い正答率であった。	・米の生産量の多い秋田県的位置を示す問題は60.6%と正答率が低かったため、「国土の自然環境などの様子」の領域同様、学習中に地図帳を利用し確認することに努めていく。
工業生産	●市の平均正答率を5.8ポイント上回っているものの正答率は68.75%と低い正答率であった。特に、「大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取っている。」の問題は、51.5%と低い正答率であった。	・大工場と中小工場の特色について、本校周辺の実態を加味しながら中小工場の方が圧倒的に数多く従業員数も多いが、生産額の割合にはさほど差がないことを再確認し、知識の定着化を図る。
産業と情報の関わり	○市の平均正答率を1.2ポイント上回っている。特に、「インターネットを利用するときの注意点について理解している」の問題では、93.9%と高い正答率であった。しかし、「コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現している」の問題は、63.6%とやや低い正答率であった。	・今後も情報化社会の仕組みや生活の中で情報がどのように生かされているか考え、様々な情報から正しい情報の選択と、上手な活用の仕方が大切であることを指導していく。また、記述式の問題にも慣れるよう、日頃から自分の考えや分かったことを短文にまとめる指導に努める。
日本の政治	○市の平均正答率を9.8ポイント上回っている。特に、非核三原則の問題では、正答率が100%であった。	・今後も政治に関する情報を、朝の会や帰りの会等で話題にし、日常生活においても政治に興味・関心をもてるよう指導していく。
日本の歴史	○市の平均正答率を3ポイント上回っているが、「飛鳥時代の出来事を理解している」の問題では、57.6%と低い正答率であった。	・これからもデジタル教科書やインターネット等を活用して課題解決に取り組み、さらに年表を活用しながら各時代の中心人物や出来事について整理するなど、指導の手立てを工夫していきたい。

# 宇都宮市立中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.1	72.6	73.1
	図形	79.2	75.7	74.7
	変化と関係	74.7	73.6	66.1
	データの活用	68.7	69.2	70.7
観点別	知識・技能	79.1	75.5	74.4
	思考・判断・表現	65.0	66.5	67.2



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

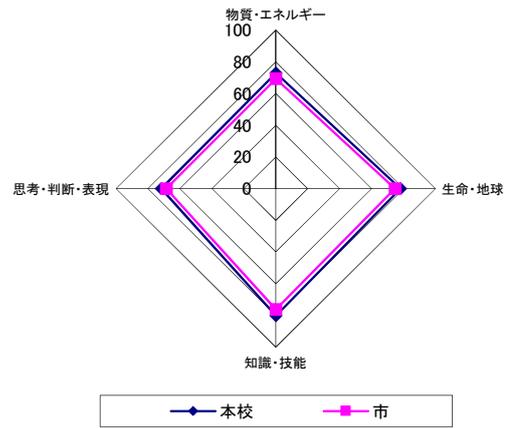
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市を2.5ポイント上回っている。特に、少数の計算では図を見て小数倍の文章問題を立式することが市より8.7～12.2ポイント、分数の計算では数量の関係を数直線に表すことが17.3ポイント高く、よくできていた。 ●文字を使った式が表す場面を選ぶことが市より9.4ポイント低かった。	・授業や朝の学習、家庭学習などの時間で引き続き復習に取り組ませ、学習内容の定着を図る。
図形	○平均正答率は、市を3.5ポイント上回っている。特に線対称な図形の対応する点を見つけることが市より11.7ポイント高く、よくできていた。 ●三角形の内角の和が $180^\circ$ であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求めることが市より3.3ポイント低かった。	・図形などの特徴から、作図の仕方や内角の和の求め方などについて考える時間を十分に確保していく。
変化と関係	○平均正答率は、市を1.1ポイント上回っている。特に速さの単位の関係を理解し、分速を秒数や時速に直すことが市より15.8ポイント高くよくできていた。 ●表から面積と人数の割合を求め、どこが最も混んでいるかを考察することが市より12.7ポイント低かった。	・日常生活と関連させ、混み具合や速さなどの比べ方や表し方について復習し定着を図る。
データの活用	○平均正答率は、市とほぼ同等であった。円グラフを読み取ることが市より6.1ポイント高くよくできていた。 ●代表値を用いて説明することが市より5.6ポイント低かった。	・問題場面を正しく理解し、考え方をわかりやすくまとめたり発表する場を多く設定する。

# 宇都宮市立中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.0	69.3	65.7
	生命・地球	78.0	74.7	77.8
観点別	知識・技能	80.1	76.2	76.4
	思考・判断・表現	71.7	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は、市より3.7ポイント上回った。「ふりこのきまり」や「物のとけ方」では、市より2～17ポイント上回り、良好な結果が得られている。</p> <p>●「物の燃え方」ではろうそくの火が消えた理由の記述やランタンの上の穴の重要性についての正答率が36.4%、39.4%と市よりも3.5～15.5ポイントも下回った。「天気の変化」では台風についての理解が市よりも2～3ポイント下回った。</p>	<p>・「物の燃え方」では、対照実験の条件をしっかりと押さえ実験に取り組ませていきたい。また、ろうそくの火が消えた原因は、酸素が無くなるのではなく減ったことであることを気体検知管での測定結果をもとに確認していきたい。</p> <p>・台風の進路予想や台風への備えについては、再度デジタル映像などを見て確認していきたい。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は、市より3.3ポイント上回った。「動物のからだのつくりとはたらき」のだ液のはたらきや「月と太陽」では、3～20ポイント市を上回り良好な結果が得られている。</p> <p>●「動物のからだのつくりとはたらき」の呼吸については市よりも1.5ポイント下回った。「生物とかんきょう」のメダカが水中の微生物を食べていることへの理解が75.8%と市よりも10.6ポイント下回った。</p>	<p>・「動物のからだのつくりとはたらき」では、吐く息と空気の成分の違いを確かめるための対照実験の条件について再度考えさせたい。それと関連して「生物とかんきょう」での気体(酸素・二酸化炭素)の流れや、自然の中での動物の食物連鎖について確認していきたい。</p>

## 宇都宮市立中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	・児童が「知りたい」「解決したい」という探究的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「勉強が好きか」という問いの肯定割合がほとんどの学年で市の肯定的割合を上回っている。 ・「学習していて、おもしろい、楽しいとおもうことがある」という質問の肯定的回答が市の肯定的割合を上回る学年が少なかった。
主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法の工夫	・対話的な学び合いのために学習展開を工夫している。 ・思考力・判断力・表現力を育成するために学習活動を工夫している。 ・学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「グループでの話合いに自分から進んで参加していますか」の肯定割合は、市の割合を上回っている学年が少ない。 ・3年生以上の「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」の問いについての肯定割合はどの学年も市の肯定的割合を上回っている。
基礎的・基本的な学習内容の定着のための工夫	・ねらいを明確にし、分かる授業を展開している。 ・担任と担任以外の教員による朝の学習支援を行ったり、定期的にステップアップテストを実施したりして、学習内容の定着を図っている。	(6年生の調査から) ・国語の基礎問題では、75.6%と市の正答率より0.6ポイント下回った。特に、敬語の問題での正答率が市を下回っている。 ・社会の基礎問題では、81.3%で市より4.7ポイント高かった。しかし、海洋名や都道府県名などの名称と位置についての問題では市の正答率を下回った。 ・算数の基礎問題では、77.9%で市より2.1ポイント高いが、単量あたりの大きさ・速さの問題では、市の平均正答率を下回っている。 ・理科の基礎問題では、80.8%で市より4ポイント高かったが、天気の変化の問題では、市の平均正答率を下回った。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	・全学年「家庭学習マイプラン」を活用し、毎日の家庭学習の内容や時間を記録させ、自主的に家庭学習に取り組む習慣をつけている。 ・学校が休みの日に「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・3年生以上の「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の問いの肯定割合は3学年で市よりも高かった。 ・読書量については、平日、休日ともに、どの学年も「まったく読まない」と答えた児童の平均が市より低い。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学習に対する取組について、児童の学習意欲について課題が見られる。児童自身が「解決したい」と思えるような課題の設定や提示のしかたを工夫したり、「進んで学習している」と感じられるような家庭での自主学習の指導を行ったりして、児童の学習意欲を高めるような取り組みを行っていききたい。

・主体的・対話的で深い学びの実現や個に応じた指導法・指導体制の工夫においては、GIGAスクール構想におけるタブレットの活用などから、児童一人一人が自分の意見を発信しやすい工夫をして、意欲的に話合いに参加できるようにしていきたい。また、意見交換が活発になるような指導を工夫し、友達の考えを認め合い、自分の考えを広げたり深めたりできるようにしていきたい。